

科目名	行動科学	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	小宮山 智志		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-31-B-3-430006		経営情報学部C：情報や情報システムの利活用方法を習得し、仕事や生活に活用できること		
授業の目的	<p>“現実”から、「なぜ～だろうか」という“問い”を考えて、つい見逃してしまいがちな人間行動のしくみに目を向けて原因を推理し（仮説を考え）、今後の行動や企画・対策を考えることを学びます。これは人類に残された最大の仕事です。覚えること、解答を計算することはコンピュータには勝てませんが問いや仮説を考えることは、いまのところ人類にしかできません。</p> <p>仕事や人生で、自分や愛する人々のことを真剣に考え“現実”に背を向けずに行動を決定するときに、私が実践してきた、そして人類がたどり着いた“ある一つの方法（観察から仮説を構築し実証すること）”をこの講義で実際に皆さんに体験してもらいます。皆さんの先輩が自分の関心に基づいて、問い・仮説を真剣に考えた卒業論文を題材にしています（皆さんの関心に合わせて、題材とする論文は変更されることがあります）。</p>				
学修到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 観察した結果を矛盾なく説明できる仮説構築力を身につけてください（授業内課題2～10回・最終レポート）。 2) 一つの現象について複数の仮説を構築することができる（授業内課題 3～10回・最終レポート）。 3) 自分の関心に基づいて問いを見つける方法を身につけてください（授業内課題5～13回・最終レポート）。 				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	<p>楽しみの社会学：本講義の射程とスケジュール等について</p> <p>*毎時間、授業内課題を行い、全員で共有します。多様な価値観・発想に触れ、さらに新しいアイデアを考える、オリジナリティがますます求められるAI時代に必要な能力を身につけます。</p>
第2回	<p>“名探偵コナン”を超越る（1）：人間行動の原因を推理する。推理小説を用いながら、現象を観察し、その原因・過程について仮説を構築し、検証方法を考えることを、第2～4回までかけて学びます。この回は観察すること、仮説の構築について映像資料を用いて学びます。</p>
第3回	<p>“名探偵コナン”を超越る（2）：先週観察した事象について、仮説を構築することを学びます。さらに仮説から予想を立てるインプリケーションについて学びます。</p>

第4回	方法編まとめ：仮説・インプリケーションを復習します。
第5回	なぜ赤目のキャラクターの印象は変化したか。 5～10回は先輩の卒業研究を例に、観察を行い、複数の仮説を構築し、検証方法を考えることをトレーニングします（題材については皆さんの関心・理解などに応じて変更することがあります）。
第6回	なぜなビットはかわいくないのか：現実の問題に対する仮説構築～卒業研究を例に～
第7回	なぜ私たちは夜更かししてしまうのか？：現実の問題に対する仮説構築～卒業研究を例に～
第8回	レストランでの披露宴は流行するのか：現実の問題に対する仮説構築～卒業研究を例に～
第9回	SNSによって私たちは何が変わったのか：現実の問題に対する仮説構築～卒業研究を例に～
第10回	仮説構築編まとめ：仮説を立てる際の経験則を振り返ります。
第11回	本人も気が付いていない原因の探り方：『デスノート the Last name』（日本テレビ）のシーンを参考に、人々の行動の背後に潜む傾向性を探ることを学びます。
第12回	最終レポートについて確認・検討します。
第13回	『ヒューマン なぜ人間になれたのか』（NHKスペシャル） NHKの番組をもとに、ホモサピエンスが、力の強いネアンデルタール人に滅ぼされずに、現在の進化を手に入れることができたのかを考えます。いままで学んできた仮説構築と、社会的ジレンマの克服がここで結びつきます。

第14回	各自が執筆してきた最終レポート案を題材に、授業内課題を行います。お互いの最終レポート案を参考に、仮説構築力を高めてください。
第15回	まとめ
第16回	最終レポートの提出

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	約2時間：テキストの該当箇所を読むとともに、予告された課題について考えてきてください。
【復習】時間・内容	約2時間：もし振り返りアンケートで内容を確認した時に、わからないことがあったら、授業中のノートを見返してください。また必要に応じてノートを書き足して完成させてください。理解できていないところがあったら振り返りアンケートにおいて質問してください。

成績評価	
評価基準・方法	授業内課題（35%）：自分の頭（知識理解・思考判断）と他人の頭をともに活用することを学びます（協調指導力・発表表現・関心意欲）。授業内課題は全員で共有し、他者のアイデア・発想・多様な価値観に触れることで、さらに新たな着想を得ることを、毎回、体験していきます（その他：オリジナリティ）。 最終レポート（65%）：オリジナリティ（その他）と論理的思考力（知識理解・思考判断）が問われます。授業内で他者からコメントを得られる機会を設けます（協調指導力・発表表現）。テーマ選びに関心意欲が関連します。
フィードバック方法	授業内課題は、全員で参考になったものの投票（ピアレビュー）を行います。上位の課題または私が選んだ課題についてのコメントを授業中に行います。最終レポートに関しては、事前に評価基準をお示しします。したがって上記の成績評価割合、授業内課題の上位との比較から、自分のレポートが評価基準のどの程度のレベルに達したのか、わかります。さらに全体のコメントをポータルで送信すると共に、自分のレポートについてコメントが欲しい方には、個別に対応します。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	グループワーク

教科書/参考書	参考文献：チャールズ・A・レイブ、ジェームズ・G・マーチ（佐藤嘉倫[ほか]訳） 『社会科学のためのモデル入門』ハーベスト社 1991年 小林淳一/木村邦博編『考える社会学』ミネルヴァ書房 1991年
受講上の留意点等	1. 公欠の場合、希望者には個別に補習を行います。欠席した分のトレーニングを補うことが出来ます。 2. 授業中、私が説明しているときは、誰も話してはいけません。小声でもダメです。私が聞こえなくてもあなたの周りの人が迷惑です。 3. 授業中に、関係のないことを行っている、盗用・剽窃を行うなどの不正・不法行為が認められた場合、直ちに以後の出席を禁止します。
JABEE	